

平成19年2月1日
気象庁 地球環境・海洋部

配信資料に関する技術情報（気象編）第250号
～海面水温・海流予報に関するFAX資料の変更について～

現在、気象庁では、旬平均の海面水温分布及び主な海流の流軸位置の予報結果を FAX にて提供しています。このことに関連し、これまで海面水温予測手法の高度化を進めておりましたが、技術的な目処が立ったことから、以下のとおり、FAX 資料の配信について変更しますので、お知らせします。

1. 変更日

海面水温・海流1か月予報資料は、平成19年2月28日より配信を開始する。
全般海面水温・海流旬予報資料は、平成19年2月19日をもって配信を終了する。

2. 改良点

1) 海面水温

これまでの統計的手法を改善し、日々の海面水温の変化を予測します。

2) 海流及び表層水温

海洋データ同化システムによって計算された最新の解析値を初期値として、1か月先までの予測計算を行い、日々の海流と表層水温の変化を予測します。

3. 予報資料の概要

1) 旬予報を廃止し、毎旬末日に「海面水温・海流1か月予報」として1か月先までの海面水温と海流の予報を発表します。

2) 予報本文（別紙1）で予想される海面水温・海流の特徴を述べるとともに、1か月先までの各旬末日の海面水温予想図、海流予想図及び海面水温時系列予想図（別紙2）を添付します。

4. 新たに配信する資料について

資料名	冒頭符号	ファイル名
海面水温・海流1か月予報資料 (予報文)	FOXX11	Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_OCN_CHT_JCIfoxx11_JCP2048x2593_image.png
海面水温・海流1か月予報資料 (海面水温予想図)	FOXX12	Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_OCN_CHT_JCIfoxx12_JCP2048x2593_image.png
海面水温・海流1か月予報資料 (海流予想図)	FOXX13	Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_OCN_CHT_JCIfoxx13_JCP2048x2593_image.png
海面水温・海流1か月予報資料 (海面水温時系列図)	FOXX14	Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_OCN_CHT_JCIfoxx14_JCP2048x2593_image.png

このファイル名は、国際的な資料交換に用いるため、世界気象機関(WMO)により採用されたファイル命名規則に準拠し、任意部分を当庁において定義したものである。

Z_C : ZとCの間には、アンダースコア“_”が2つ続く。

yyyymmddhhmmss : 本資料では予報資料の配信日(世界標準時)を表す。hhmmssは000000とする。

データ形式：PNG 形式

配信日：原則として、毎月 10 日、20 日及び末日。ただし、配信日が休日となる場合は直前の平日。

配信開始日：平成 19 年 2 月 28 日

5. 配信を終了する資料について

資料名	冒頭符号	ファイル名
全般海面水温・海流旬予報資料	FOXX02	Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_OCN_CHT_JCIfoxx02_JCP2048x2593_image.png

データ形式：PNG 形式

最終配信日：平成 19 年 2 月 19 日

海面水温・海流 1 か月予報
(平成 18 年 10 月 11 日から 11 月 10 日まで)

平成 18 年 10 月 10 日
気象庁地球環境・海洋部発表

1. 海面水温

日本近海海面水温は、10 月中旬に日本の南で大きく低下し、平年より 1℃以上低い海域が広がるでしょう。その後は、平年より 1℃低い状態が続くでしょう。日本海北部及びオホーツク海南部での平年より高い状態は、10 月中旬に平年並になり、その後は、平年並の状態が続くでしょう。東シナ海北部、黄海では平年と比べ次第に高くなるでしょう。

日本のはるか東方の北緯 35 度、東経 160 度を中心とする海域で、10 月下旬以降、平年より 1℃以上低い海域が広がるでしょう。南シナ海、フィリピン南東海域の平年より 1℃以上低い海域は、10 月下旬までに解消するでしょう。

2. 海流

黒潮は、10 月下旬以降、九州東岸で離岸するでしょう。四国から潮岬に接岸して流れ、東海沖を東に流れ、10 月中旬は八丈島の南、その後は八丈島と三宅島の間を流れるでしょう。房総半島には次第に接岸してくるでしょう。

10 月中旬の親潮の南限位置は、北緯 39 度、東経 144 度にあります。11 月上旬には北緯 41 度東経 146 度付近に後退する見込みです。親潮面積は期間を通して縮小し、10 月下旬以降平年を下回るでしょう。

対馬暖流は、期間を通して、鳥取沖で沖合を流れた後、若狭湾から能登半島に接近して流れます。能登半島以北では、離岸して流れるでしょう。ただし全般的に接岸傾向にあり、対馬暖流域の面積は、平年より少ない状態が続くでしょう。

本予報及び日別の予報図については、「海洋の健康診断表」の「海洋のデータバンク」からご覧いただけます。最近の実況の経過については、「海洋の健康診断表」の「週から月規模の海洋の変動」または海域ごとの診断で解説しています。

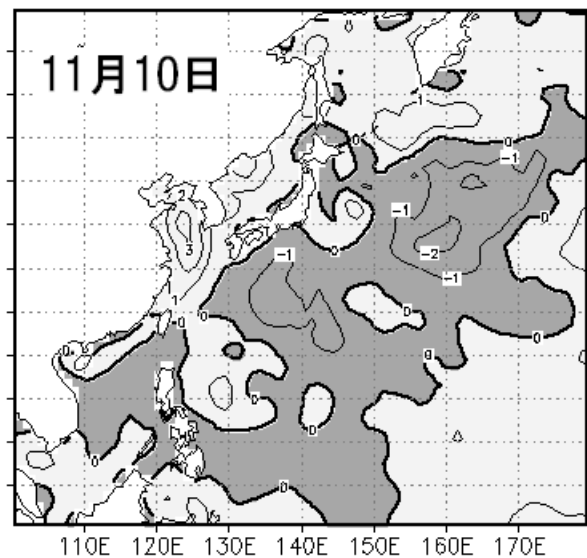
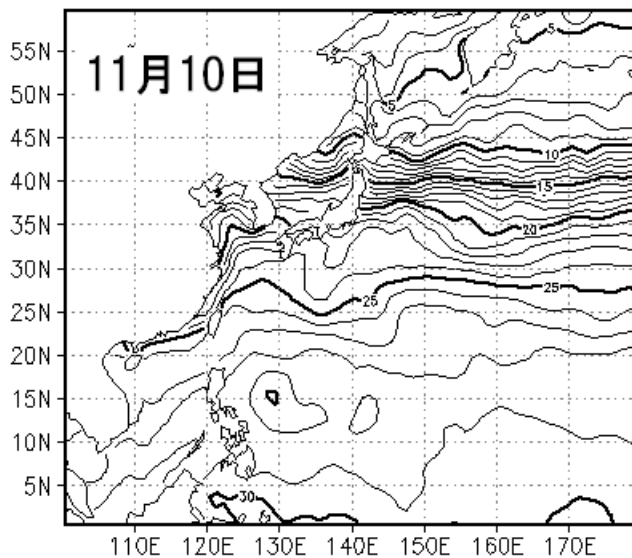
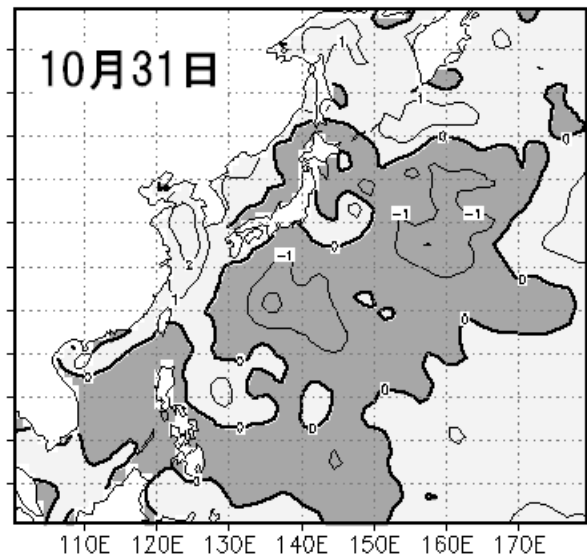
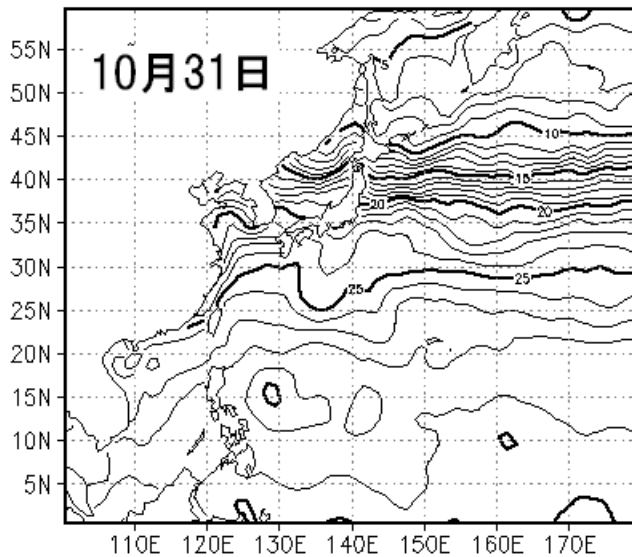
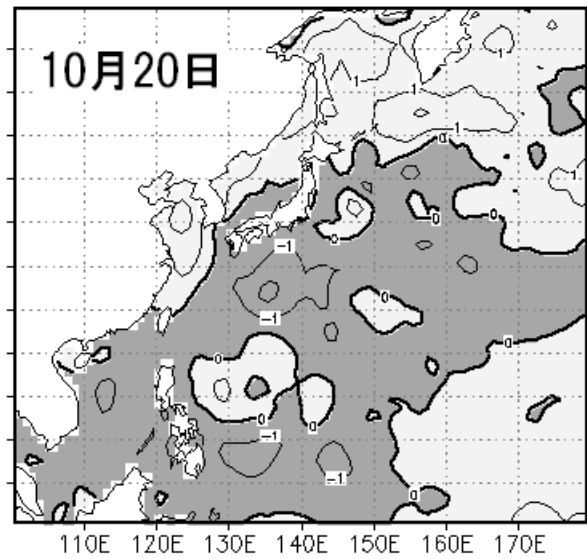
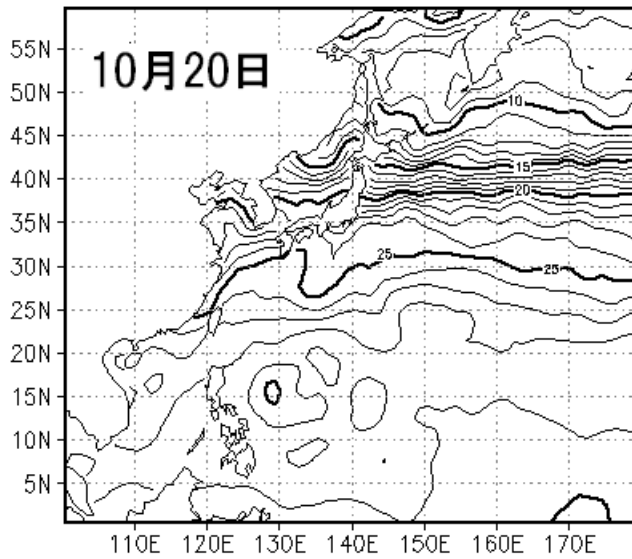
海洋の健康診断表の URL : <http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/>

海洋のデータバンクの URL : <http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/index.html>

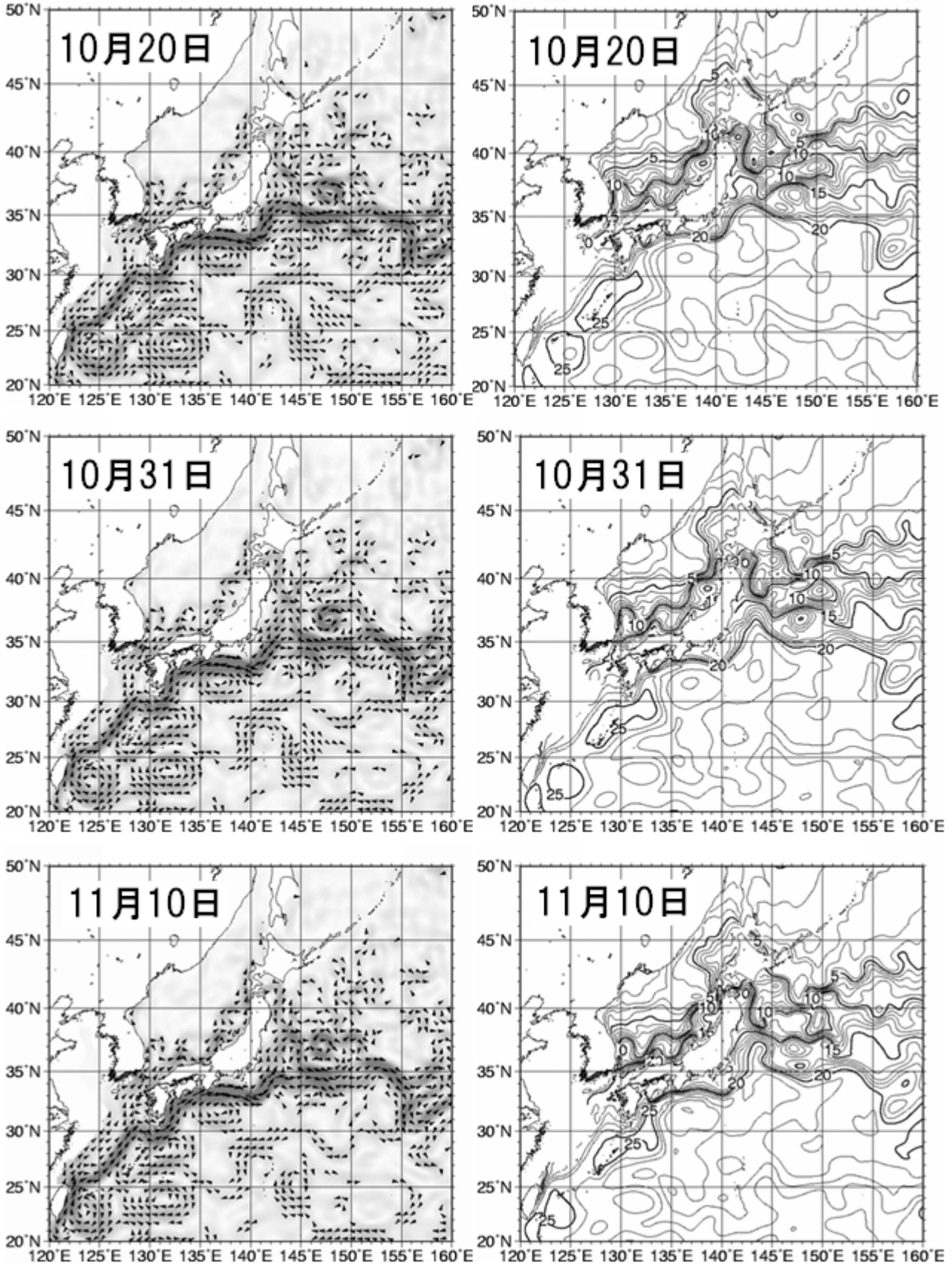
本予報の URL : <http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/kaikyo/ocean/forecast/fmon.html>

本件に関するお問い合わせは 海洋気象情報室 : 03-3212-8341 内線 5127
次回の予報発表は 10 月 20 日 16 時です

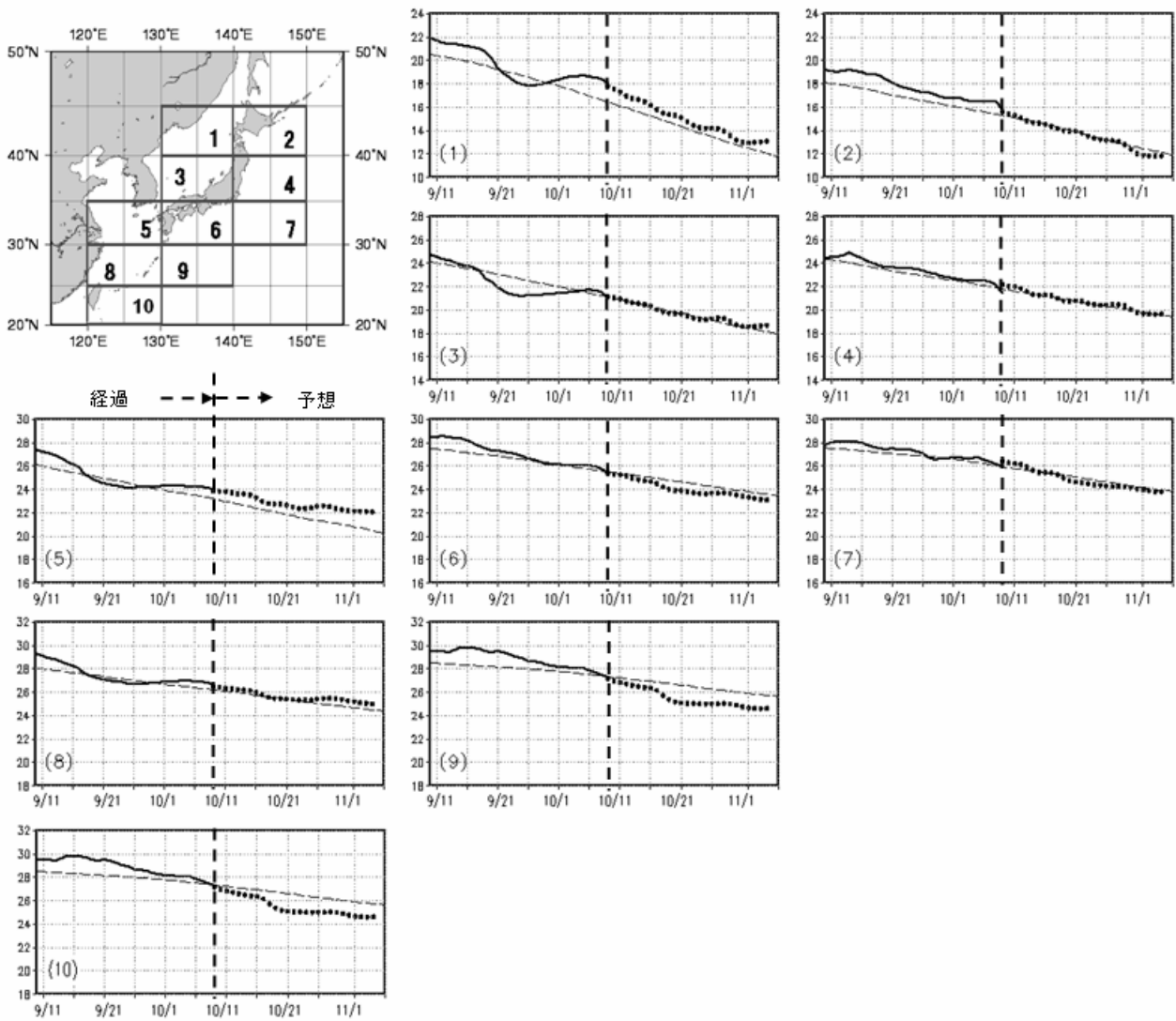
[海面水温・海流1か月予報資料(海面水温予想図)]



海面水温予想図（左列）：海面水温を1℃毎の等値線で示しています。海面水温予想年差図（右列）：陰影部は平年値より低い海域を表します。



海流予想図（左列）：海面付近における海流の向きを矢印で、海流の強さを陰影の濃淡で示しています。深さ100mにおける水温予想図（右列）：水温分布を1°C毎の等値線で表しています。



左上に示す海域（1～10）の平均海面水温の時間変化：時系列図の左下の数字は海域を表します。中央の太い破線を境に、左側の実線は最近1か月の実績の経過、右側の点線は予報、細い破線は平年値を表します。